

第1学年C組 生活科学習指導案

授業者 丹 理人
研究協力者 中野 良樹
教材分析協力者 長瀬 達也

1 単元名 なかよしタイム part 2 ～ようこそ1Cなかよしランド～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

1学期に行った「なかよしタイム part 1」において子どもたちは、附属幼稚園そら組園児と継続して遊ぶ活動を行った。異年齢での交流に初めは緊張していた子どもたちだったが、遊びの中でそれぞれのかかわり方を見付けた。お化け屋敷作りをした際には、園児と一緒にコース作りをする子どもや、看板を立てる子どもの姿が見られ、一緒に遊びをつくる楽しさを味わうことができた。また、「なつとともだち」の水遊びでは、魚釣りや水路作り、木に水を流しての滝作りなどの多様な遊びで、夏を楽しもうという思いを豊かに表現した。さらに単元終盤では、「水路にそうめんを流してみたい」「僕の船で魚を釣れるようにしたい」等、遊びをコラボレーションして活動を発展させようと、願いをつないでいく姿が見られた。

思いや願いを豊かに表現し、友達と遊びをつくり上げていく活動を楽しむことのできる子どもが多数いる一方で、活動が思い通りにならないと投げ出してしまう子どもや、自分の思いを優先させてしまうあまり、一人で遊びを完結させてしまう子どもも見られる。自分の現在の姿を的確に捉え、協働的な活動を継続する中で、楽しむことについての価値観を更新していく機会が十分に設けられていなかったためと考えられる。

また、それぞれがこだわりをもって普段の生活を楽しむ姿が見られる一方で、友人関係が固定化されていたり、経験のない活動に対して前向きになれなかったりする様子も見られる。様々な表現方法を用いてクラスメイトと関わりながら、新たな楽しさをつくり出す経験を積み重ねていくことができる学びの機会が必要であると感じられる。

(2) 単元について

本単元では、自然物を生かしたテーマパーク「なかよしランド」をつくり、友達や園児と遊ぶことで、身の周りの環境や人々に愛着を深め、なかよしになっていくことを目指す。

本校の敷地内には、栗や無花果、グミなど様々な種類の樹木が植えられており、9月から10月にかけて実りの季節を迎える。また、1年棟の外には「ふれあい広場」があり、子どもたちは小山や溜め池を遊びに生かすことができる。その他にも、普段はあまり意識していない日光や風など、本学級の子供達は様々な自然物に囲まれて過ごしている。本校ならではの豊かな自然環境に目を向けることで、子どもの興味の幅が広げられ、創造性や協働性が発揮された多様な遊びによる活動が展開されることが期待できる。

単元の後半では、これまで自然物を生かしてつくってきた「なかよしランド」でそら組園児と楽しむことが目標となる。こだわりをもち改良を重ねた遊びを、園児と共に楽しむことのできる遊びに変換するためには、更なる試行錯誤が必要となる。他者に思いを寄せて遊びをつくり変え、普段の人間関係を越えた活動が展開されるなかで、楽しむことについての価値観を更新していく児童の姿が実現されると考えられる。

(3) 指導について

本単元では、身の周りの自然を生かして遊びをつくり、様々な人と共に楽しむための考えを深め、豊かに表現するという資質・能力を高めるための2つの取組を継続する。

授業デザインの取組一つ目と二つ目との関連から、学校の周りの自然環境についての気付きや、自分たちのつくる遊びを学級全体で書き込む「なかよしマップ」を準備する。身の周りの自然についての気付きが自覚化されるとともに、遊び場が充実していくことが可視化されることで、活動への手応えが感じられるのではないだろうか。それにより思いや願いが更に強まり、粘り強く活動に取り組む姿が引き出されると考える。また、マップから子どもの思いをつかむことは、支援を充実させていくための手立てにもつながるであろう。

授業デザインの取組三つ目との関連から、様々な対象への「なかよし」を絵や色や数値、図形などで自由に表現できる「なかよしメーター」を取り入れた振り返りカードの記入を行う。気付きを文章で表現することには個人差があるが、メーターの違いや変化を基に、対話を生み出していきたい。対話を重ねる中で、子どもは思いをつなぎ、協働して遊びを豊かに、楽しく変容させ、楽しむことについての価値観を更新していくだろう。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 身の周りの自然を生かした「なかよしランド」で一緒に遊ぶ活動を通して、自然の面白さや、友達と一緒に遊ぶ楽しさに気付く。 〈キ-2、イ-1〉

(2) 身の周りの自然を生かした「なかよしランド」で一緒に遊ぶ活動を通して、活動をよりよくするために工夫したり、友達との関わりについて考えを深めたりすることができる。 〈ケ-1、ケ-2、カ-2〉

(3) 身の周りの自然を生かした「なかよしランド」で一緒に遊ぶ活動を通して、友達の思いにも寄り添いながら、共に遊びをつくり出そうとする。 〈a-1、a-2〉

4 単元の構想（総時数 15 時間）

なかよしタイム part 1～いっしょにあそぼう～
試したり工夫したりしながら一緒に遊びを楽しむことを通して、自分や相手のよさに気付く。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1 2	(1) これまでの学校での活動を振り返ったり、学校の周りを散策して自然物を見付けたりする。 ・水遊びで滝を作って楽しかった。 ・たし算カルタが面白かった。 ・学校で虫捕りをしたよ。 ・またそら組さんと遊びたいな。	・遊びに思いや願いが生まれるように、マップに子どもの気付きを書き込んでいく。	・これまでの生活や身の周りの環境から遊びの見通しを立てている。 ＜イ-1、キ-2＞
3	(2) 「なかよしランド」での遊びの計画を立てる。 ・滝を見るスポットが作りたい。 ・みんなで楽しむイベントを作ろう。 ・材料を集めに行きたいな。	・活動を積み重ねてよりよい遊びをつくれるよう、子どもが記入する計画書を準備する。	・生活経験や自然を生かしてみんなで楽しめる遊びをつくろうと計画している。 ＜a-1＞
4 5	(3) なかよしランド本番に向けて準備を進める。 ・校庭で見付けた葉っぱや木の実が遊びに使えそう。 ・僕たちの遊びを合体させたら楽しそうだね。 ・なかよし広場も使いたいな。	・マップや計画書を基に、材料を準備したり場を工夫したりする。 ・新たな気付きが遊びの発展につながるよう、子ども同士をつなぐ声掛けをする。	・思いや願いを基に遊びをよりよくしようと試行錯誤している。 ＜ケ-2＞
6	(4) 試し遊びや、振り返りをして、よりよいテーマパークについて考える。 ・この遊びは自然を生かしているのかな。 ・みんなで一つのテーマパークにするにはどうしたらいいかな。	・相互評価の観点をもって遊びについて考えられるように、役割分担をしてお互いの遊びを試す時間を設ける。	・よりよいテーマパークを作りたいという気持ちをもち、自分や友達の遊びについて考えている。＜a-2＞
7	(5) 話し合いを基に、遊びを見つめ直し、準備を進める。 ・遊びを合わせてお祭りゾーンを作ろう。 ・木の実の楽器でテーマパークを盛り上げよう。 ・私の作った色水をゲームの景品に使ってね。	・思いを実現していけるように、材料や場などの環境を工夫する。 ・思いや願いが更新されていくように、活動の中で得られた気付きを掲示に記入していく。	・自然を生かして楽しめるように遊びを工夫してつづけている。 ＜ケ-1＞
8	(6) 「なかよしランド」本番をみんなで楽しむ。 ・みんなが楽しめる工夫がいいね。 ・広場の山でこんな遊びができるんだね。	・遊びの中でお互いの思いに気付くことができるように、工夫を紹介してから遊びに入る。	・自然の面白さや、一緒に遊ぶ楽しさに気付いている。 ＜キ-2、イ-1＞
9	(7) 振り返りを行い、これからの活動への見通しをもつ。 ・いろいろな遊びが生まれたね。 ・力を合わせて楽しいなかよしランドになった。 ・他の人とも遊んでみたい。	・自分たちの成長に気付くことができるように、活動を通しての写真や映像を見る時間を設ける。 ・遊びが発展していくように、そら組児童とも一緒に遊ぶことを提案する。	・これまでの活動を振り返り、更に楽しい遊びにしようという気持ちを高めている。 ＜a-2＞
10	(8) そら組園児との活動に向けて計画を立てる。 ・虫が好きな子がいるから、虫の飾り付けをしたら嬉しいかな。 ・ルールをもう少し簡単にしないと一緒に楽しめないかも。	・実態に合わせて遊び方を考えられるように、そら組担任の話を聞いたり、これまでの交流を振り返ったりする。	・園児との活動への見通しをもち、遊びをよりよくしようという気持ちを高めている。 ＜a-2＞

11 12	(9) そら組園児との「なかよしランド」での遊びに向けて準備を進める。 ・おもちゃを増やして一緒に楽しめるようにしよう。 ・ルールを少し簡単にしよう。 ・附属小の楽しさを伝えたい。	・一緒に楽しむことへの期待感が高まるように、準備に入る前に園児と活動した際の思いを引き出す。	・一緒に遊ぶ相手に思いを寄せた遊び方を考えている。 <カ-2>
13 本時	(10) お互いの工夫を共有した上で、本番に向けて試しながら遊びをつくる。 ・やりたかった遊びと変わってきたけど一緒に遊ぶのが楽しみ。 ・うまく遊べるか友達に試してもらおう。 ・飾り付けでもっと楽しいテーマパークにしよう。	・園児と一緒に楽しみたい気持ちが遊びで表現されるよう、どのような思いをもって遊びをつくり変えてきたのかを伝え合う時間を設ける。 ・活動に没頭できるように、遊びづくりの時間を十分に取り、振り返りを個別のタイミングで行う。	・園児と一緒に楽しめる遊びになるよう、試行錯誤を重ねている。 <ケ-2>
14	(11) そら組園児と「なかよしランド」を楽しむ。 ・思った通りにいかないから、少しルールを変えよう。 ・一回目よりもみんなで楽しめた。	・一緒に楽しむことができるように、遊びの約束を話し合う時間を設ける。	・なかよしランドを一緒に楽しむために、遊び方や関わり方を工夫している。 <ケ-2>
15	(12) これまでの活動を振り返る。 ・クラスのみんなだけでも楽しかったけれど、そら組さんと一緒に遊んだらもっと楽しかった。 ・これからも季節ごとに自然を楽しめるといいな。	・自然を生かして遊ぶよさや、様々な人たちと遊ぶ楽しさに気付くことができるよう、振り返りの視点を設ける。	・遊びの振り返りを通して自身の変容に気付き、これからの生活への意欲を高めている。 <a-1、a-2>

◎本単元で育む主な資質・能力

身の周りの自然を生かした遊びをつくり、様々な人と共に楽しむための考えを深め、豊かに表現する。(ケ-1、ケ-2、カ-2)



ふゆとともだち

冬の自然物を生かして友達と一緒に遊ぶことを通して、冬の自然の面白さに気付いたり、友達と活動をよりよくしようと工夫したりする。

5 本時の実際(13/15)

- (1) ねらい みんなで楽しむための工夫に着目して、そら組園児との「なかよしランド」での遊びに向けて話し合ったり、準備したりする活動を通して、よりよい遊びをつくろうと試行錯誤することができる。〈ケ-2〉

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
10 分	① これまでの活動を振り返って、活動の見通しをもち、めあてを確認する。 ・1回目の「なかよし」ランドの遊びと変わってきた。 ・ルールを工夫するともっと楽しくなりそう。 ・○○君のやり方を真似してみよう。 ・遊びが完成した人は何をしたらいいかな。 めあて _____ 「なかよし」ランドをみんなで楽しめるように準備を進めよう。	・相手意識をもった遊びへと変容したことに気付くことができるように、写真や映像を準備したり、「なかよしメーター」の変化に着目して話し合いをしたりする。 ・「なかよしランド」や園児への思いを引き出し、気付きをつなげられるように、板書しながら発言をまとめる。
35 分	② 「なかよしランド」本番に向けて準備をする。 〈予想される子どもの反応〉 【遊びに変化が見られない】 ・もう完成しているから遊んで過ごそう。 ・もう満足しているからこのままでいいや。 ・自分が好きな遊びができて楽しいな。 【よりよい遊びにしようと試行錯誤している】 ・木の実の楽器の音をもっと大きくしよう。 ・オブジェの飾り付けをもっと増やして派手にしたい。 ・水路を長くして船が長い時間流れるようにしてみよう。 ・射的の銃の種類をふやそう。 【相手に思いを寄せて「なかよしランド」の内容を考え、試行錯誤している】 ・一緒に楽器を演奏できるようにオリジナルのメロディーをつけてみよう。 ・会場全体が楽しい雰囲気になるような飾り付けはどうしたらいいかな。 ・水路の本数を増やしてレースができたなら一緒に楽しめるかも。 ・そら組さん的に当てられるように立ち位置を調整したらいいかな。 ・友達の作ったおもちゃを僕のゲームの景品にしたら嬉しい気持ちになるかな。 (③ 振り返りシートを記入する。) ・考えていた遊びと変わってきたけど、もっと楽しいものになった。 ・自然をうまく生かした遊びになった。 ・力を合わせて遊びが進化したよ。	○それぞれの課題解決に向けて没頭できるよう、振り返りを生かして環境設定を工夫する。 ・活動の見通しがもてない児童も前向きに活動に取り組めるように、他の児童に遊びを試してもらい、アドバイスを受けられるように声を掛ける。 ・一緒に遊ぶ相手を意識した準備の時間となるように、そら組園児のことを思い返せるような掲示を準備する。 ・一緒に遊ぶ相手に思いを寄せた工夫を自覚できるよう、教師も一緒に遊びながら遊びに込めた思いを引き出す。 みんなで楽しむための工夫に着目して、そら組園児との「なかよしランド」での遊びに向けて準備をする活動を通して、よりよい遊びをつくろうと試行錯誤している。〈ケ-2〉(発言・行動観察) ○活動に満足し、思いを生き生きと表現できるよう、授業中いつでもそれぞれのタイミングでシートを記入してよいことを伝える。

令和7年度 生活科実践・研究計画

部 員	○丹理人、柴田省吾
-----	-----------

1 昨年度の成果と課題

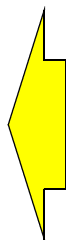
昨年度の実践を通して、生活科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 2年「おいしいお米つくりたい」では、米を栽培しておにぎりパーティーをすることを目標に活動する中で、よりよい世話の方法を考えたり、オリジナルの収穫祭をつくったりした。米を守るためにポスターや案山子を作ったり、泥だらけになりながら草取りをしたりすることで、児童は米の生命を感じ愛情を深めた。収穫の喜びや米への感謝を表現する祭りをつくった際には、衣装や歌作り、田んぼの周りでのオリンピックなど、多様な表現が生まれた。お試しの収穫祭では遊びに込めた思いが友達に伝わらず、満足いく結果とならなかったグループもあったが、お互いが思いを共有する場面を設けたり、更に試行錯誤を重ねる時間を確保したりしたことにより、本番は笑顔の溢れる収穫祭となった。成長を願いながら米への関わりをよりよくしようとする中で深まった気付きから多様な表現が生まれた。また、「米の収穫をみんなで祝いたい」という強い願いから祭りをつくる活動に粘り強く取り組む姿が表出したのだと考える。
- ② 1年「なかよしタイムpart3～そら組の友達と一緒に楽しもう～」では新入生に本校を紹介する活動をつくった。授業者は単元構想の際、「勉強」「イベント」「先生」「その他」の観点から活動の内容を決めていこうと想定していた。活動の見通しを立てる話し合いをしていると、何度も発言する児童が多くいる一方で、自分の席に座り、気が乗らない児童の姿も見られた。話し合いが進むと「UFOキャッチャー」「おもちゃ屋さん」など、新入生と一緒に楽しむことで学校のよさを伝えようと、自由に活動を提案する声が聞かれた。当初の構想から離れていくことに葛藤した授業者であったが、「子どもと共に作る」ことを大切にしようと、新入生と一緒に楽しめる遊びを自由につくる活動にしていこうとし、思い思いにやってみたい遊びを書き出す時間を設けた。直前まで話し合いに入れなかった児童も「屋台でたこ焼きを売りたいんだ」と参観者に話しかける程活動に前のめりになっていた。本番に向けて準備を進める際には、授業が終わる時間になっても、友達と幼稚園児の姿を想像しながら、材料を手にとって屋台をよりよくしようとする児童の姿が見られた。子どもの思いに寄り添えるような授業デザインや場づくりにより、自ら問い続け、願いを具現化しようという気持ちが高まったと考えられる。
- ③ 上記の2年生での実践では、お試しの祭りの後に全体での振り返りを行った。悩んでいる様子のグループに焦点を当てて話し合ったが、一人一人が異なる思いをもって活動していたためか、深まりが見られなかった。また、1年生の実践では、授業の終わりに互いの活動について意見を交流する時間を設けたが、話し合いには入らずに活動に没頭する児童の姿が見られた。掲示に書き込んだり、必要なメンバーで集まって振り返ったりと、それぞれの思いが溢れ出す瞬間を捉えて行うような振り返りや意見交流の工夫が必要だと考える。

成果と課題を踏まえ、生活科部は、自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 生活科における自律した学習者の姿

- ①② 対象に繰り返し関わり、思いや願いを強くしていく中で豊かに表現し、活動をよりよくしようと試行錯誤する姿
- ③ 必要に応じて場やメンバーを自ら選び、意見を共有することにより気付きをつなげ、よりよい活動にしようとする姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 繰り返し関わり、手応えを感じながら活動を発展させていくことができるような対象の設定や、出会いの場の工夫
- 思いに寄り添った展開や場で、児童が生き生きと活動できる単元づくり
- 場所・時間、メンバーを選び、必要感がもてるような振り返りの場の工夫や、気付きをつなぐ教師の意図的な声掛け

令和7年度「生活科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年
生活科の 学びに向かう 力、 人間性等	a1	学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	全般	■	■
	a2	身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	全般	■	■
	a3	自分自身を見つめることを通して、意欲と自信をもって生活するようにする。	全般	■	■

内容構成の 具体的な視点	健康で 安全な生活	ア1	健康に気を付けて、規則正しく生活ができる。	(1)学校と生活 (2)家庭と生活	学校、 家庭及び 地域の生活に 関する 内容	■	■
		ア2	安全に気を付けて、楽しく安心して遊びや生活ができる。	(1)学校と生活 (3)地域と生活		■	■
		ア3	安全な登下校ができる。	(1)学校と生活		■	■
		ア4	通学路の様子やその安全を守っている人々に気付くことができる。	(1)学校と生活		■	■
	身近な 人々との 接し方	イ1	学校生活を支えている人々や友達に気付くことができる。	(1)学校と生活		■	■
		イ2	家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き、自分の役割を果たすことができる。	(2)家庭と生活		■	■
		イ3	地域で生活したり働いたりしている人々と適切に接することができる。	(3)地域と生活		□	■
	地域への 愛着	ウ1	自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気付くことができる。	(3)地域と生活		□	■
		ウ2	地域の人々や場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりすることができる。	(3)地域と生活		□	■
	公共の 意識と マナー	エ1	公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。	(4)公共物や公 共施設の利用	身近な人々、 社会及び自然と 関わる活動に 関する 内容	■	■
		エ2	身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。	(4)公共物や公 共施設の利用		■	■
		エ3	みんなで使うものや場所、施設を大切に正しく利用できる。	(4)公共物や公 共施設の利用		□	■
	生産と 消費	オ1	身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使用したりすることができる。	(6)自然や物を 使った遊び		■	■
		オ2	必要なものを自分で計画的に買ったり、用件を正しく伝えて買い物などを行ったりすることができる。				□
	情報と 交流	カ1	相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりし、様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合うことができる。	(8)生活や出来 事の伝え合い		■	■
		カ2	身近な人々に関わることやよさや楽しさに気付き、身近な人々に関わったり交流したりすることができる。	(8)生活や出来 事の伝え合い		■	■
	身近な 自然との 触れ合い	キ1	動物を飼ったり植物を育てたりして、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。	(7)動植物の 飼育・栽培		■	■
		キ2	身近な自然(草花、樹木、水、氷、雨、雪、風など)を観察し、それらの違いや特徴を見付けることができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培		■	■
		キ3	自然の面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培		□	■
		キ4	動物や植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、動植物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。	(7)動植物の 飼育・栽培		□	■
	時間と 季節	ク1	四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くことができる。	(5)季節の変化と 生活		■	■
		ク2	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しんだりすることができる。	(5)季節の変化と 生活		□	■

	遊びの工夫	ケ1	身近な自然を利用したり, 身近にある物を使ったりするなどして, 遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができる。	(6) 自然や物を使った遊び		☐	☒
		ケ2	自分と友達などとのつながりを大切にしながら, 遊びを創り出し, みんなと楽しく過ごすことができる。	(6) 自然や物を使った遊び		☐	☒
	成長への喜び	コ1	自分が大きくなったこと, 自分でできるようになったこと, 生活での自分の役割が増えたことに気付くことができる。	(9) 自分の成長	自分自身の生活や成長に関する内容	☒	☒
		コ2	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができる。	(9) 自分の成長		☐	☒
		コ3	自分の成長を喜び, これからの成長への願いをもって, 意欲的に生活しようとする事ができる。	(9) 自分の成長		☒	☒
	基本的な生活習慣や生活技能	サ1	生活のリズムを整え, 時間を守ることができる。	全般		☒	☒
		サ2	道具や用具の準備, 片付け, 整理整頓ができる。	全般		☒	☒
		サ3	ルールやマナーを守ったり, 適切な挨拶や言葉遣いをしたりすることができる。	全般		☒	☒
		サ4	訪問や依頼の仕方を知ったり, 電話や手紙などを使って連絡したりすることができる。	全般		☐	☒

生活科の学びを深める「見方・考え方」

- b1 自分の知識や経験をもとに, 会いたい人, 行きたい場所, してみたいことなどに着目して, 自分の思いや願い, 関心や疑問をもつ。
- b2 身近な人々, 社会及び自然などの対象に, 見る, 聞く, 触れる, 作る, 探す, 育てる, 遊ぶなどして直接働きかける。
- b3 試す, 見通す, 工夫するなどの活動により, 試行したり, 予測したり, 工夫したりなどして創造的に気付きを得て考える。
- b4 見付ける, 比べる, たとえるなどの活動により, 気付きを比較したり, 分類したり, 関連付けたりするなどして分析的に考える。
- b5 気付きや考えなどについて, 言葉, 絵, 動作, 劇化などの方法によって, 他者と伝え合ったり, 振り返ったりする。
- b6 身近な人々, 社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかに着目し, 自分自身や自分の生活について考え表現する。